

ZEDi-10 / ZEDi-10FX

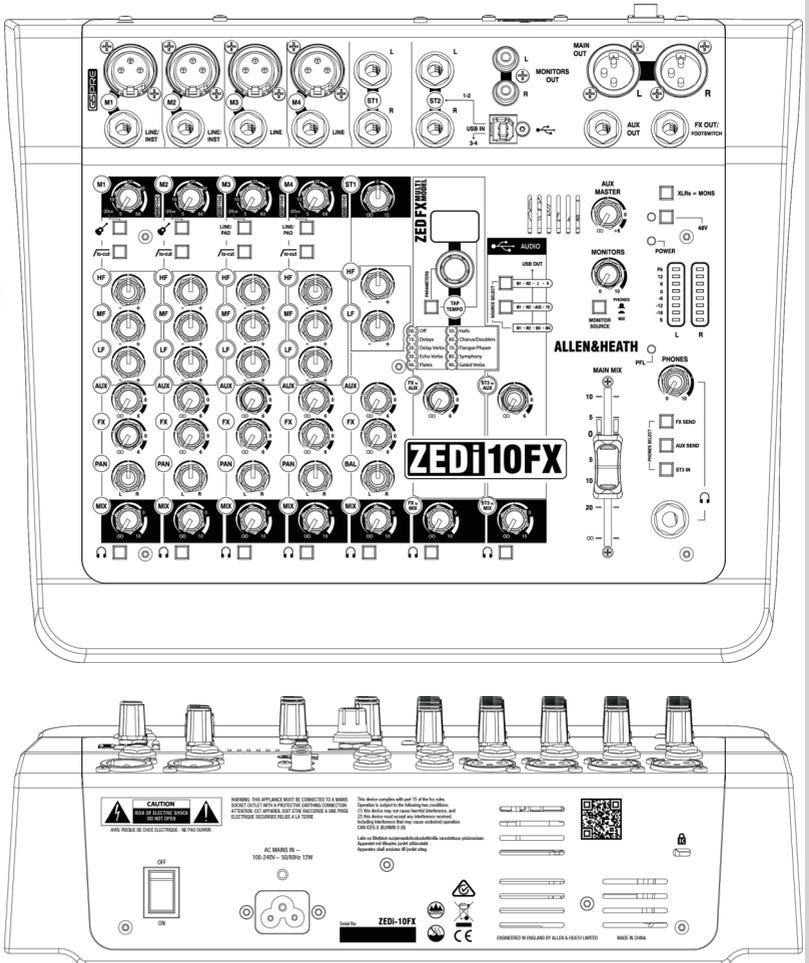
10 Channel Live + Recording Mixer ユーザーガイド

この度はAllen & Heath ZEDi-10 / ZEDi-10FXをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ごぞいます！

本機の機能を最大限に発揮してお使いいただけるよう、本ガイドをよくお読みの上、安全な場所に保管されることをお勧めします。

梱包箱には次のアイテムが入っています。漏れなどがないかご確認ください：

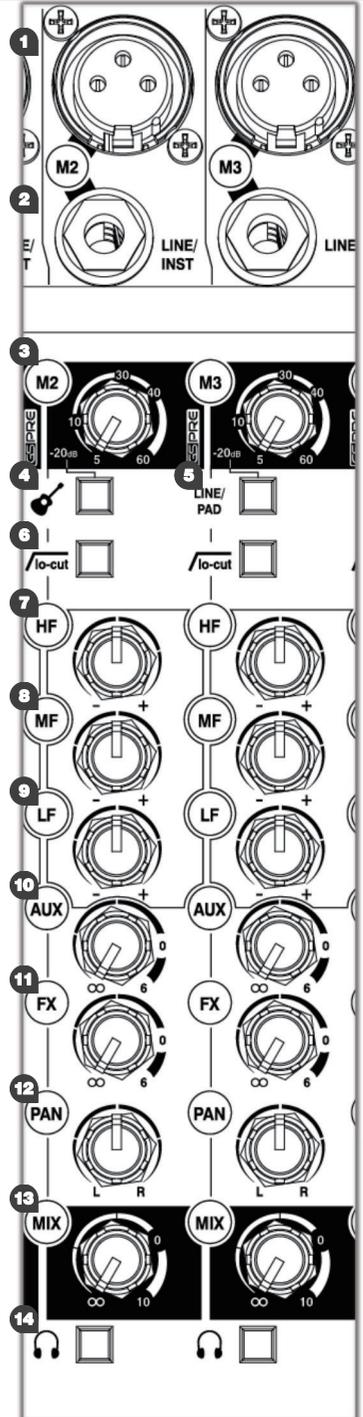
- ZEDi-10 / ZEDi-10FX ミキサー本体
- 電源ケーブル
- USB A-B ケーブル(2m)
- ユーザーガイド(本書)



1. 各部の名称と機能

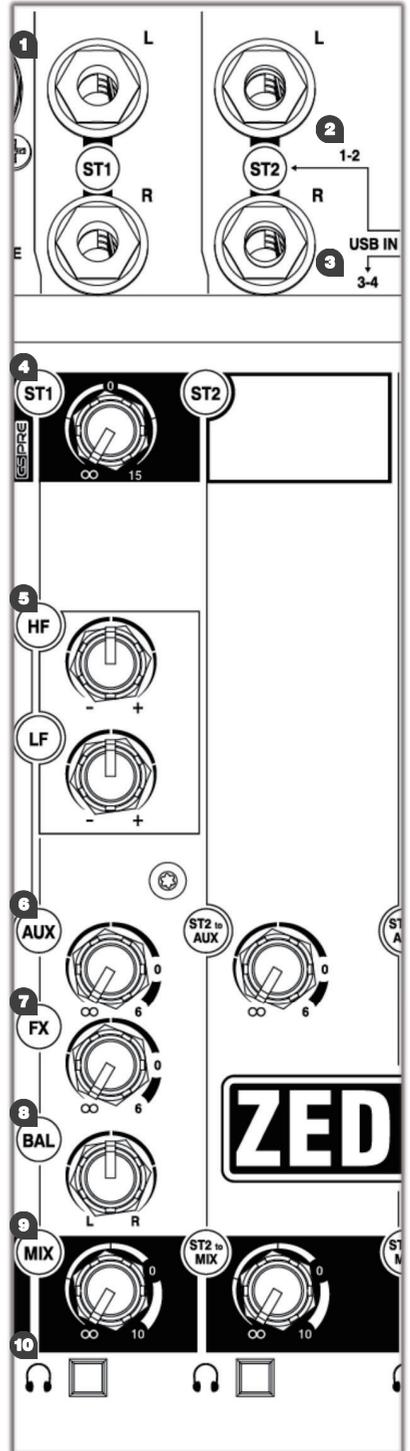
1.1 モノ入力チャンネル(M)

- 1. マイク入力:** 3ピンXLRコネクターの入力端子で、ダイナミック型またはコンデンサーマイクを接続します。
- 2. (LINE/INST)入力:** 1/4インチ標準ジャックの入力端子です。ギターやその他楽器などのバランス/アンバランス信号を接続します。
- 3. ゲイン調整ノブ:** 入力プリアンプのゲインを調整して、入力信号のレベル設定に使用します。ゲインは5dB~60dBの範囲で調整可能です。
- 4. (INST)スイッチ:** エレアコやエレキギター、ベース、その他出力インピーダンスが高い楽器を**(LINE)**入力に接続する時にオンにします。このスイッチが押されている時は**マイク入力**が無効となります。オフの時は**(LINE)**入力は無効となります。
- 5. (LINE/PAD)スイッチ (M3, M4チャンネル):** マイク入力に接続したソースのレベルが非常に大きい場合、このスイッチをオンにするとレベルが20dB減衰します (PAD機能はマイク入力にのみ有効な機能です)。また、**(LINE)**入力の入力を使用する際もこのスイッチをオンにする必要があります。
- 6. (lo-cut)スイッチ:** マイクの「吹かれ」や振動など低音域ノイズを取り除きたい場合に使用します。
- 7. (HF EQ)ノブ:** 高音域用イコライザーです。ノブをセンターから右へ回すと明るく明瞭度の高い音色になり、高音域が耳障りな場合は左へ回します。
- 8. (MF EQ)ノブ:** 中音域用イコライザーです。存在感のある音色にしたい場合や、不自然な箱鳴りを抑えたい場合に使用します。
- 9. (LF EQ)ノブ:** 低音域用イコライザーです。低音域の迫力を出したり、モコモコした感じを抑えたい場合などに使用します。
- 10. (AUXセンド)ノブ:** チャンネルからAUXバスや**(AUX OUT)**端子に送る信号量を調整します。この信号は**プリフェーダー**ですので、メインのL-Rバスに送られる**(MIX)ノブ**の設定に関係なく、センド量を調整できます。**(AUX OUT)**にはマスターレベルノブがあります。
- 11. (FXセンド)ノブ:** チャンネルからFX(エフェクト)バスや**(FX OUT)**端子に送る信号量を調整します。この信号は**ポストフェーダー**ですので**(MIX)ノブ**の影響を受け、メインミックスと同じバランスを保つことができます。**(FX OUT)**にはマスターレベルノブはありません。
- 12. (PAN)ノブ:** モノチャンネルの定位をメインミックスの左右間で調整します。
- 13. (MIX)ロータリーフェーダー:** メインミックスに送る信号量を調整します。
- 14. (PFL)スイッチ:** チャンネルの信号をメインミックスに送る前にヘッドホンでモニターする際に使用します(プリフェーダー・リッスン)。この信号はEQ以後ですが**(MIX)ノブ**の寸前の信号です。オンの場合、**LRメーター**にはそのチャンネルのレベルが表示されます。



1.2 ステレオ入力チャンネル (ST)

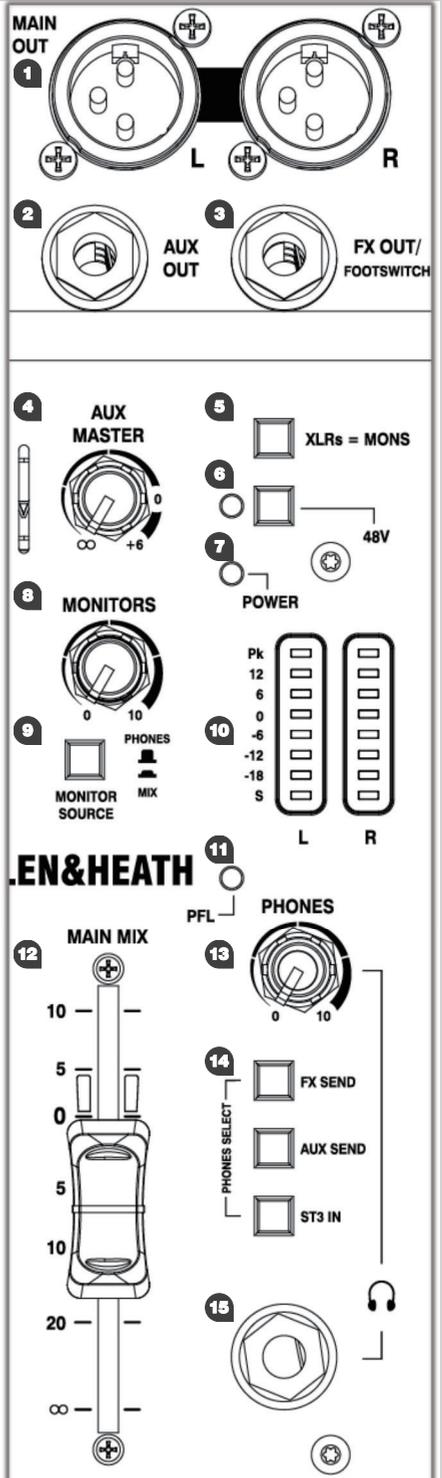
- (ST1)、(ST2)入力**：1/4インチ標準ジャックの入力端子で、キーボードやドラムマシン、その他プロ用オーディオ機器などのバランス/アンバランスのラインレベルのステレオソースを接続します。
- (USB IN 1-2)**：ZEDi USBインターフェースからのUSBオーディオ信号1-2は、**(ST2)**チャンネルに入ります。**(ST2)**チャンネルをUSBオーディオで使用する場合は、**(ST2)入力**に何も接続されていないことをご確認ください(**(ST2)入力**が接続されている場合、その信号がUSBオーディオよりも優先されます)。
- (USB IN 3-4)**：ZEDi USBインターフェースからのUSBオーディオ信号は、**(ST3)**チャンネルに入ります。ZEDi USBインターフェースにつきましては、6ページの「3. ZEDi USBオーディオインターフェース」をご参照ください。
- ゲイン調整ノブ(ST1のみ)**：**(ST1)**チャンネルのゲインを調整して、入力レベルを設定します。**(ST2)**チャンネルにはゲイン調整はありませんのでご注意ください。
- (HF EQ)、(LF EQ)ノブ**：**(M1)**、**(M2)**チャンネルと同様の高音域用、低音域用イコライザーです。**(ST2)**チャンネルにはEQはありませんのでご注意ください。
- (AUXセンド)ノブ**：チャンネルからAUXバス、**(AUX OUT)**端子に送る信号量を調整します。この信号はプリフェーダーですので、メインのL-Rバスに送る**(MIX)ノブ**の設定とは関係なく調整できます。**(AUX OUT)**にはマスターレベルノブがあります(**FX OUT)**にはありませんのでご注意ください)。
- (FXセンド)ノブ**：チャンネルからFXバス、**(FX OUT)**端子に送る信号量を調整します。この信号はポストフェーダーですので**(MIX)ノブ**の影響を受け、メインミックスと同じバランスを保つことができます。
- (BAL)ノブ**：ステレオ入力チャンネルの左右の相対的な音量バランスを調整し、メインミックスに送ります。**(ST2)**チャンネルには**(BAL)ノブ**はありませんのでご注意ください。
- (MIX)ロータリーフェーダー**：メインミックスに送る信号量を調整します。
- (PFL)スイッチ**：チャンネルの信号をメインミックスに送る前にヘッドホンでモニターする際に使用します(プリフェーダー・リッスン)。この信号はEQ以後ですが**(MIX)ノブ**の寸前の信号です。オンの場合、**LRメーター**にはそのチャンネルのレベルが表示されません。



1.3 マスターセクション

- (MAIN OUT) L&R** :メインミックスのステレオ出力です。XLR端子で対ノイズ特性に優れたバランス出力です。
- (AUX OUT)** :AUXバス出力です(1/4インチ標準ジャック:ラインレベル)。モニター用スピーカー、ヘッドホンやイヤホンによるモニター機器を接続する際などに使用します。
- (FX OUT/FOOTSWITCH)** :FXバス出力です(1/4インチ標準ジャック:ラインレベル)。主に外部エフェクト機器を接続する際に使用します。*ZED-i-10FXでは、この端子にフットスイッチ(チップとスリーブが接触するものをご使用ください)を接続して内蔵エフェクトの出力のミュートに使用できます。*
- (AUX MASTER) ノブ** : **(AUX OUT)** 端子からの出力ボリュームを調整します。
- (XLRs = MONS) スイッチ** : PFL信号を **(MAIN OUT)** 端子と **(PHONES)** 端子に出力させたい場合にこのスイッチをオンにします。スタジオのコントロールルームでモニターする際に便利です。
- (48V) スイッチ** : コンデンサーマイクやアクティブタイプのDIボックスに+48Vファンタム電源を供給する際に使用します。オンにすると、全マイク入力にファンタム電源が供給されます。
- (POWER) LED** : 本機の電源がオンのときに点灯します。
- (MONITORS) ノブ** : **(MONITOR OUT)** 端子の出力ボリュームを調整します(6ページをご参照ください)。
- (MONITOR SOURCE) スイッチ** : **(MONITOR OUT)** 端子出力を、**(PHONES)** 端子または **(MAIN OUT)** 端子からの信号のどちらかに切り替える際に使用します。
- (LR) メーター** : メインミックスのレベルを表示します。**(PFL) スイッチ** がオンの場合は、PFL信号のレベルが表示されます。
- (PFL) LED** : **(PFL) スイッチ** がオンの場合に点灯します。
- (MAIN MIX) フェーダー** : メインミックスのマスターボリュームを調整します。
- (PHONES) ノブ** : **(PHONES)** 端子の出力ボリュームを調整します。
- (PHONES SELECT) スイッチ** : **(PHONES)** 端子に出力する信号を **(FXセンド)**、**(AUXセンド)**、**(ST3)** 入力に切り替える際に使用します。何も選択していない場合はメインミックスが出力されます。**(PFL) スイッチ** がオンの場合は、そのチャンネルの信号が出力されます。
- (PHONES)** : ヘッドホン端子です(1/4インチ標準ステレオジャック)。

注意! 極端な大音量での使用は避けてください。そのような状況下で長時間使用すると特定の帯域、または全帯域での難聴など聴覚障害にいたる恐れがありますので、音量には十分にご注意ください。



2. ZED FX Multi Modelプロセッサー (ZEDi-10FXのみ)

2.1 エフェクト・セクション

リバーブやディレイは、自然な音響をプラスしてミックスに空間的な広がり感がつかますが、それ以外にも音楽に合ったリピート・エコーにするという面白い使い方もあります。また、モジュレーション・エフェクトは倍音を強調したり、深みや動きのある音色にする際に使用します。

1. **ZED FX Multi Modelプロセッサー**：高品位内蔵エフェクトユニットで、FXバスからのモノラル信号にかかります。
2. **(FX SELECT/PARAMETER) ノブ**：エフェクト・プリセットを選択したり、エフェクト・パラメーターを変更する際に使用します。
3. **(TAP TEMPO) ボタン**：タップテンポ・パラメーターがあるディレイの使用時に、このボタンでディレイ・タイムを調整できます。ディレイを選択すると、ディスプレイの右桁の小数点が点滅します。

エフェクト・パラメーターの設定変更は、**(TAP TEMPO) ボタン**を押しながら**(FX SELECT/PARAMETER) ノブ**を回して行います。この時、ディスプレイに設定値の「P0」～「P9」が表示されます。

エフェクト・パラメーターを工場出荷時の設定にリセットしたい場合は、**(FX SELECT/PARAMETER) ノブ**と**(TAP TEMPO) ボタン**を同時に押しながら本機の電源を入れます。

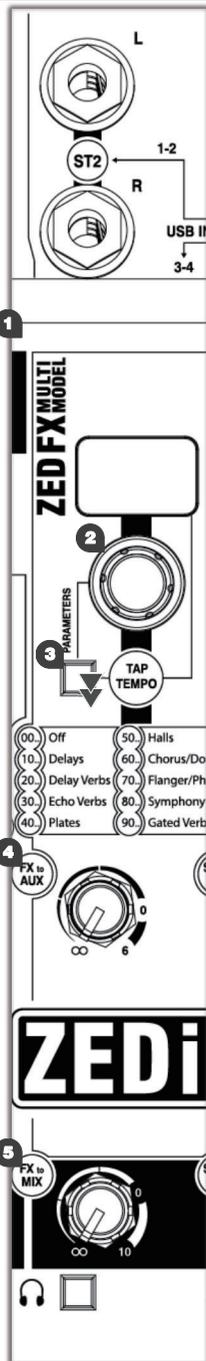
エフェクト・プリセット「00」を選択すると、内蔵エフェクトがオフになります。

4. **(FX TO AUX) ノブ**：AUXバス、**(AUX OUT)**に送るエフェクト信号のレベルを調整します。
5. **(FX TO MIX) ロータリーフェーダー**：エフェクト信号(ステレオ)をメインミックスに送るレベルを調整します。

(ST2)入力からの信号は、**(FX TO MIX) ロータリーフェーダー**を経由してからメインミックスに送られます。これは外部エフェクト機器からのリターンチャンネルとして使用することを想定しているためですが、内蔵エフェクトを使用していない場合は、通常の入力チャンネル(ステレオ)として使用できます。

ラッチタイプのフットスイッチを**(FX OUT)**端子に接続して、内蔵エフェクト出力のミュートオン/オフをコントロールすることも可能です(4ページをご参照ください)。フットスイッチは、チップとスリーブが接触するものをご使用ください。

ZED FX Multi Modelプロセッサーに関しては、9ページ「6.4 エフェクト信号をミックスする」もご参照ください。



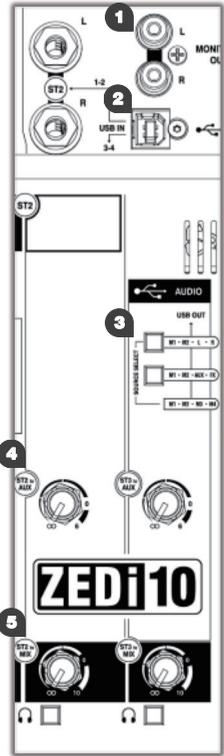
3. ZEDi USBオーディオインターフェース

3.1 USBオーディオインターフェース

本機は4イン/4アウト、24ビット/96kHz USBオーディオインターフェースを内蔵し、PCへダイレクトにスタジオ・クオリティのレコーディングができます。MacやiOSデバイスではUSBクラス・コンプライアント(プラグ・アンド・プレイ)です(iOSデバイスの場合はカメラコネクションキットが別途必要です)。USBケーブルで本機とMacのUSBポート、またはiOSデバイスを接続するだけで動作します。

Windowsシステムをお使いの場合は、ドライバーソフトをインストールする必要があります。最新のドライバーソフトはwww.allen-heath.com/ahproducts/zedi-10/から入手できます。

1. **(MONITOR OUT)** : RCA端子のステレオ出力です(ラインレベル、アンバランス)。モニタースピーカーやヘッドホン、イヤホンによるモニター機器に接続する場合などに使用します。
2. **(USB) コネクター** : タイプBコネクターです。本機とコンピュータ間で双方向マルチチャンネルのオーディオ転送が行え、USB 2.0に対応しています。
3. **(USB OUT SOURCE SELECT) ボタン**: USBインターフェースから出力するオーディオソースを選択します。
 - ・ **(M1-M2-AUX-FX)** 選択時: **(M1)**、**(M2)** チャンネル、AUXバス、FXバスからの信号が出力されます。
 - ・ **(M1-M2-L-R)** 選択時: **(M1)**、**(M2)** チャンネル、メインミックスの信号が出力されます。
 - ・ 何も選択していない場合: **(M1)~(M4)** チャンネルからの信号が出力されます。
4. **(ST2/ST3 TO AUX) ノブ**: **(ST2)**、**(ST3)** の各チャンネルから **(AUX OUT)** に送るレベルをそれぞれ調整します。**(USB IN 1-2)**、**(USB IN 3-4)** の信号を **(PHONES)** や **(MONITOR OUT)** の各端子に送る場合に便利です。
5. **(ST2/ST3 MIX) ロータリーフェーダー**: **(USB IN 1-2)**、**(USB IN 3-4)** からの信号をメインミックスに送るレベルをそれぞれ調整します。



3.2 USBオーディオインターフェースのトラブルシューティング

ZEDi USBオーディオインターフェースでの録音再生で問題がある場合、次の手順で解決できることがあります:

- **最低動作環境**: お使いのPCがDAW(レコーディング・ソフト)の最低動作環境を満たしているかどうかをチェックします。満たしていない場合、ポップノイズや音切れ、音割れが起きる場合があります。
- **ドライバーソフト**: 最新版をお使いかどうかをチェックします(Windowsの場合)。最新版はAllen & Heathウェブサイトからダウンロードできます。
- **オーディオ・バッファ・サイズ**: オーディオ・バッファ設定はポップノイズや音切れ対策に効果的ですが、録音再生時のオーディオ処理にレイテンシー(遅れ)が発生してしまいます。バッファ・サイズは、各種ノイズや音切れが発生しない範囲でなるべく小さくするのが理想的です。
- **USBハブ**: USBハブを使用している場合、オーディオインターフェースに割り当てられる帯域幅が狭くなってしまうことがあります。本機を使用する場合、USBハブを使わずにPCのUSBポートに直接接続するのがベストです。
- **グラウンド・ループ、ハム**: 電源のグラウンド・ループは低周波ノイズやハムノイズの原因になります。このような場合、電源タップを使用して使用機材の電源を同じコンセントから取るとノイズが解消することがあります。ラップトップの場合、電源アダプターがノイズ源になることもあります。可能な場合はオーディオの接続をバランス接続にするのも効果的です。
- **フィードバック**: メインミックスをDAWに録音する場合に本機内部でフィードバックが発生することがあります。DAWからの信号がメインミックスに混ざるとフィードバックが発生し、急激に音量が上がってスピーカーなどの機器が破損することもあります。メインミックスをDAWに録音する場合は、DAWの録音トラックをミュートするか、DAWからのUSB INチャンネルのレベルを下げる、またはDAWからの信号はPFLでモニターしてください。

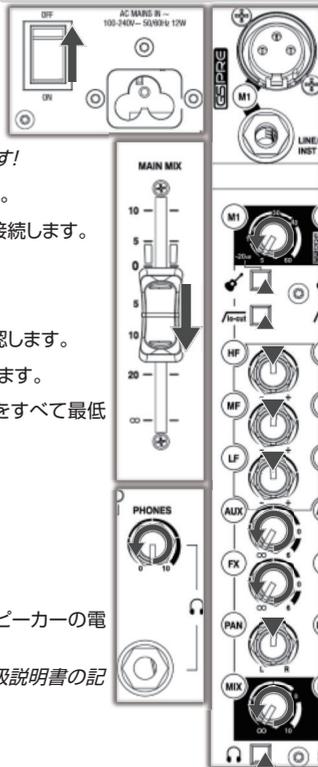
4. 接続の前に

4.1 「ゼロイング」

本機にマイクなどの機器を接続する前に、スピーカーなどの機器の破損を防ぐため、本機のノブの位置を「0」にしておく「ゼロイング」をお勧めします。次の手順で「ゼロイング」を行えば、マイクや各機器を安全に接続できます。

スピーカーのスイッチは、「オンにする時は最後」、「オフにする時は最初」が鉄則です！

1. 本機のリアパネルにある電源スイッチが「オフ」になっていることを確認します。
2. 電源コードをコンセントに接続し、本機のリアパネルにある電源コネクタに接続します。
! 電源コードのプラグがコンセントに合ったものかどうかをご確認ください。
3. 各チャンネルのゲインノブを最低値にします(左いっぱいに戻します)。
4. (INST)、(lo-cut)、(PFL)、(48V) スイッチがオフになっていることを確認します。
5. 各チャンネルのEQ、(PAN) ノブをすべてセンター位置(▼の位置)に合わせます。
6. 各チャンネルの(FXセンド)、(AUXセンド)、(MIX) ロータリーフェーダーをすべて最低値にします(左いっぱいに戻します)。
7. (MAIN MIX) フェーダーを「∞」の位置にします。
8. (PHONES) ノブを最低値にします。
9. スピーカーやアンプの電源がオフになっていることをもう一度確認しましょう！
10. スピーカー、楽器、その他の機器を接続します。
11. 楽器など本機の入力に接続した機器の電源、その次に本機の電源、最後にスピーカーの電源をオンにします。
スピーカーやアンプのボリューム設定につきましては、それぞれの機器の取扱説明書の記載内容に従って設定してください。



5. マイクや楽器などを接続する

5.1 マイクを接続する

ダイナミック型やコンデンサーマイク、DIボックスはバランス接続対応のXLRマイクケーブルでマイク入力に接続します。

コンデンサーマイクを使用する場合は、48Vファンタム電源が必要になります。アクティブタイプのDIボックスにもファンタム電源が必要な場合があります。

- !** ホット・プラグによるノイズやショックを防ぐために、(48V) スイッチをオンにする前に(AUX MASTER) ノブ、(MAIN MIX) フェーダーを必ず最低値にセットしてください。

5.2 楽器やラインレベルの機器を接続する

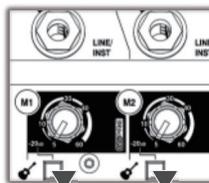
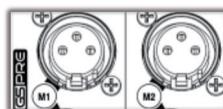
エレアコやエレキギター、ベースなど高インピーダンス(Hi-Z)の楽器は(M1)、(M2)チャンネルの(LINE/INST) 入力に楽器用ケーブル(シールド)で接続します。DIやプリアンプは不要です。

これらの楽器の非常に高い出力インピーダンス(10MΩ)に合わせるため、(INST) スイッチをオンにします。

キーボードやシンセ、ドラムマシンなどのラインレベル楽器や外部エフェクト機器は、モノラルは(M1)~(M4)、ステレオの場合は(ST1)、(ST2)の各チャンネルに接続します。

(M3)、(M4)チャンネルに接続する場合は、(LINE/PAD) スイッチをオンにしてください。

楽器や各機器の接続は、10~11ページ「7. 接続例」も併せてご参照ください。

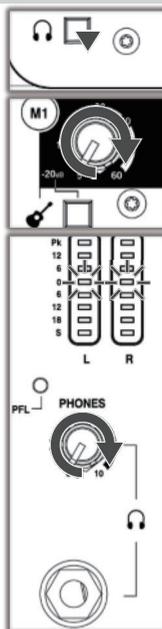


6. サウンド・チェックをする

6.1 ゲイン調整をする

1. マイクや楽器などの接続が完了しましたら、ミキシングをする前にゲイン調整を行います。
2. ゲイン調整は、入力信号を不要な歪みのない範囲で最大レベルにする、ミキシングのための重要な準備です。ゲインを最適な状態に調整することで入力信号のレベルを最適化し、S/N比を可能な限り最良の状態にできます（信号はより大きく、ノイズはより小さく）。
3. マイクを接続した場合は、最初に音源とマイクとの距離が適正かどうかをチェックします。マイクの位置を何種類か試してみることをお勧めします。
4. **(PFL) スイッチ**を押すと、そのチャンネルのフェーダーに入る前の信号を聴くことができ、同時に**LRメーター**にレベルが表示され、チェックに便利です。
5. 歌やスピーチ、楽器をそれぞれの最大レベルも含めて演奏してもらいます。
6. ゲインノブを少しずつ上げ、**LRメーター**で各チャンネルのレベルが適正値になるようにゲイン調整をします。この時、最大レベルがメーターの「0」～「+6」の間に入るようにします。
7. モニター用ヘッドホンを接続し、**(PHONES) ノブ**を上げます（音量にご注意ください）。
8. 必要に応じて、より適正な信号レベルにしたり歪みを起こさないようにゲインを再調整します。**(M3)**、**(M4)**チャンネルに接続したソースの音量が非常に大きい場合は、**(LINE/PAD) スイッチ**をオンにする必要がある場合もあります。

各入力チャンネルのゲイン調整が完了しましたら、次に**(lo-cut) スイッチ**や**EQ**を使用して各チャンネルの音質を調整して全体的な音質バランスを取ります（必要な帯域を強調したり、不要な帯域を小さくする）ので、**(PFL) スイッチ**はそのままオンにしておきましょう。



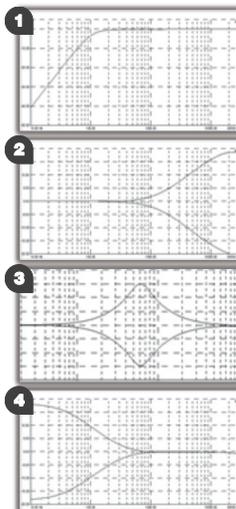
6.2 EQやフィルターでの音作り

EQやフィルターは、特定の周波数帯域をカットしたり、ブーストしたりすることができます。ブーストし過ぎると信号がクリップしたり歪んでしまうことがありますし、カットし過ぎると、信号のレベルが大きく下がってしまうことがあります。

EQを使い過ぎると不自然な音になってしまうことがあります。楽器ごとの音色の特徴や、各楽器の音響上の重なり具合などを知ることで、EQをより音楽的に使うことができます。

1. **(lo-cut)** (ハイパス) フィルターは、主にマイクが拾う振動や手に持ったときのノイズなどの低域ノイズをカットし、明瞭度の高い信号にすることができます。**(lo-cut) スイッチ**は**マイク**・チャンネル、**(LINE/INST)**チャンネルで使用できます。コーナー周波数は100Hzです。
2. **(HF) EQ**は高音域を調整します。コーナー周波数は12kHzで、ギター音の明るさや明瞭度、ボーカルのサ行やシンバルの耳につく帯域を調整するのに役立ちます。
3. **(MF) EQ**は中音域を調整します。センター周波数は600Hzで、ボーカルの存在感を出したり、ギターに耳につく「箱鳴り」を抑えたい場合などに効果的です。
4. **(LF) EQ**は低音域を調整します。コーナー周波数は80Hzで、ベースやバスドラムの量感を出したり、タムの低域の膨らみ過ぎをカットするのに便利です。

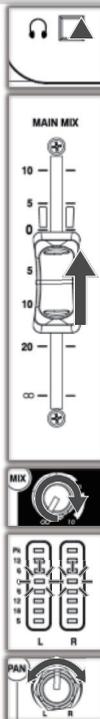
各チャンネルの信号レベルや音色が決まりましたら、**(PFL) スイッチ**をオフにしてミキシングに進みます。



6.3 ミキシング

各入力チャンネルのゲイン調整やEQの設定が決まりましたら、ミキシングをスタートできます。各楽器の重要度やミックスの全体像を考慮しつつ、ミキシングを行います。

1. **〔PFL〕スイッチ**がすべてオフになっていることを確認し、**メインミックス**のレベルが**LRメーター**に表示されるようにします。
2. **〔MAIN MIX〕フェーダー**をゆっくりと上げ、「0」の位置にします。
3. 各チャンネルの**〔MIX〕ロータリーフェーダー**を上げ、信号をメインミックスに送ります。
4. メインミックスのレベルが**LRメーター**に表示されます。
5. 各チャンネルの信号がミックスされるにつれて、メーターが大きく振れてミックス全体のレベルが上がります。
6. 最大音量の時に音が歪まないようにレベルに余裕(ヘッドルーム)を残しておきます。ピークの平均がメーターの「0」付近になるようにレベルを調整します。ボーカルと楽器のバランスや、どの楽器を目立たせるかなどを考慮しながら、自然なサウンドになるように注意します。
7. **〔MIX〕ロータリーフェーダー**が上がっているのにレベルが小さい、または**〔MIX〕ロータリーフェーダー**を下げてもレベルが依然として大きいチャンネルがある場合は、ゲイン調整やEQ設定を見直す必要があります(前ページ6.1をご参照ください)。
8. **〔PAN〕**、**〔BAL〕ノブ**で各チャンネルの定位を設定し、ステレオ音像を作ります。この時、バスドラムなど低音域のエネルギーが大きい音は、スピーカーへの負荷が左右で均等になるように、センターに定位するのが一般的です。



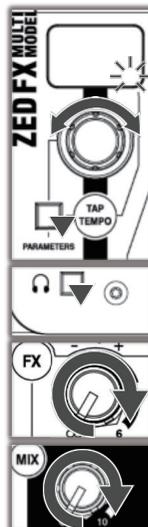
6.4 エフェクト信号をミックスする(ZEDi-10FXのみ)

エフェクトをかける前に考えておくべきことに、ボーカルや楽器などエフェクトをかけたいチャンネルのソースが、まるでどこか別のところで鳴っているかのようにしたいのか、ディレイのように繰り返すタイプのエコーが必要なのか、あるいは自然な残響音が必要なのか、ということがあります。

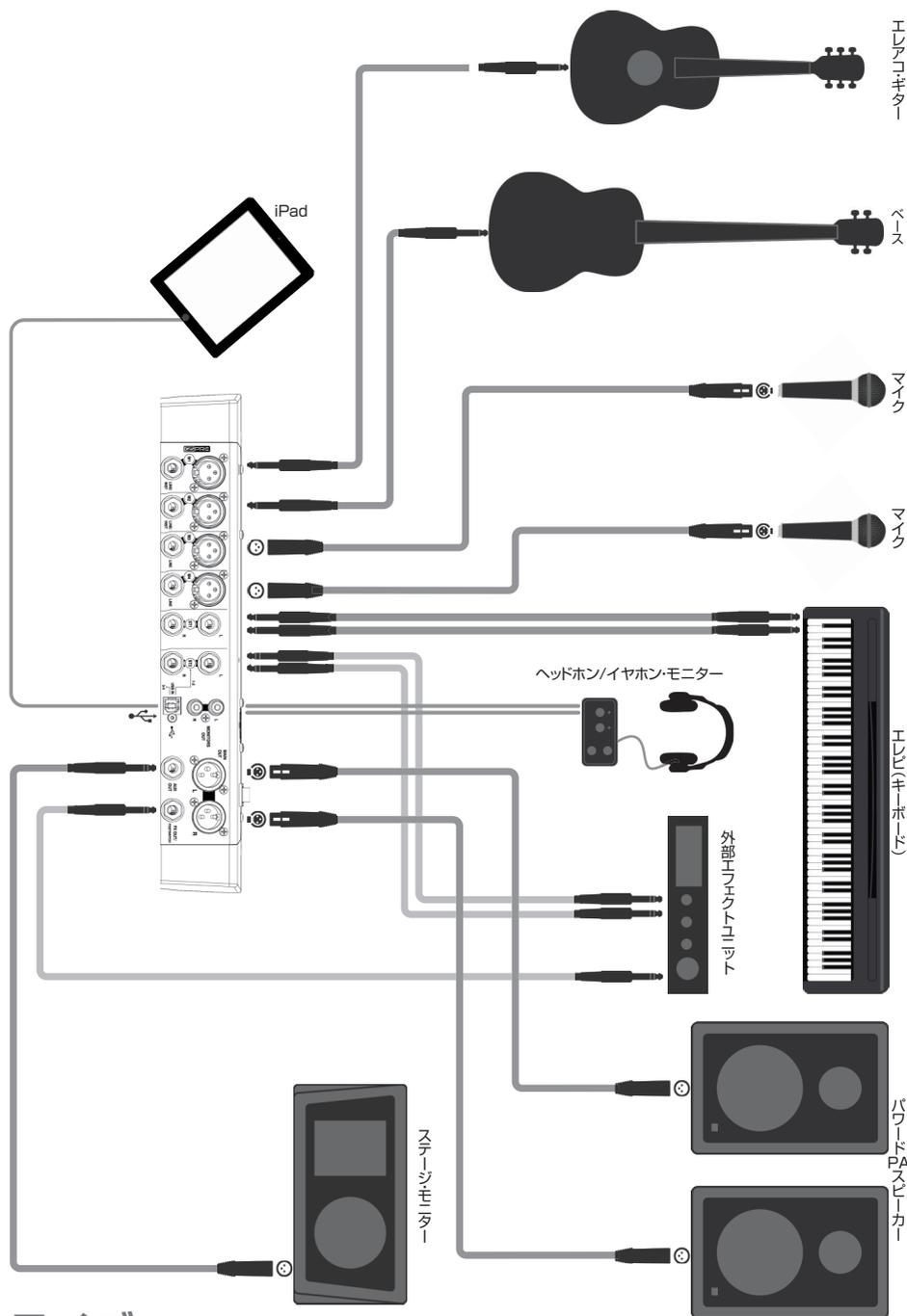
エフェクトをかけ過ぎると原音の明瞭度が下がってしまうことがあります。

1. **〔FX SELECT/PARAMETER〕ノブ**で必要なエフェクト・プリセットを選択します。
2. エフェクトをかけたいチャンネルとエフェクト・セクションの**〔PFL〕スイッチ**をオンにし、ドライ(原音)チャンネルとウェット(エフェクト)チャンネルの信号をメインミックスに送る前に、ヘッドホンでモニターしてチェックします。
3. ディレイ・エフェクトで、ディスプレイの小数点が点滅しているプリセットを選択している場合、**〔TAP TEMPO〕ボタン**で音楽に合わせたディレイ・タイムを設定できます。
4. エフェクトをかけたいチャンネルの**〔FXセンド〕ノブ**を上げて必要なエフェクト・センド量にします。**〔FXセンド〕**はポストフェーダーですので、そのチャンネルの**〔MIX〕ロータリーフェーダー**が上がっていないとエフェクトはかかりません。
5. 2~4.の操作をその他エフェクトが必要なチャンネルで行います。
6. **〔FXセンド〕**の設定が終わりましたら、**〔PFL〕スイッチ**をオフにします。
7. エフェクト・チャンネルの**〔MIX〕ロータリーフェーダー**をゆっくりと「0」の位置に上げ、メインミックスに送ります。
8. 必要に応じて**〔FXセンド〕ノブ**を再調整します。

フィードバックの多いディレイに対して**〔FXセンド〕**を上げ過ぎたり、フィードバックを大きくし過ぎるとフィードバック・ループ(ハウリング)が急速に発生し、スピーカーやその他の機器を破損することがありますので、十分にご注意ください。



7. 接続例



ライブ

エレアコギター

ベース

ダイナミックORコンデンサーマイク

エレピキーボード

ドラムマシン

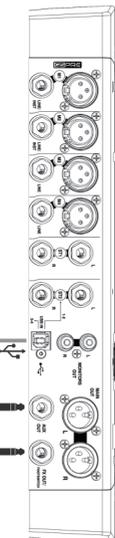
リアレンジモニター

アクティブスタジオモニター

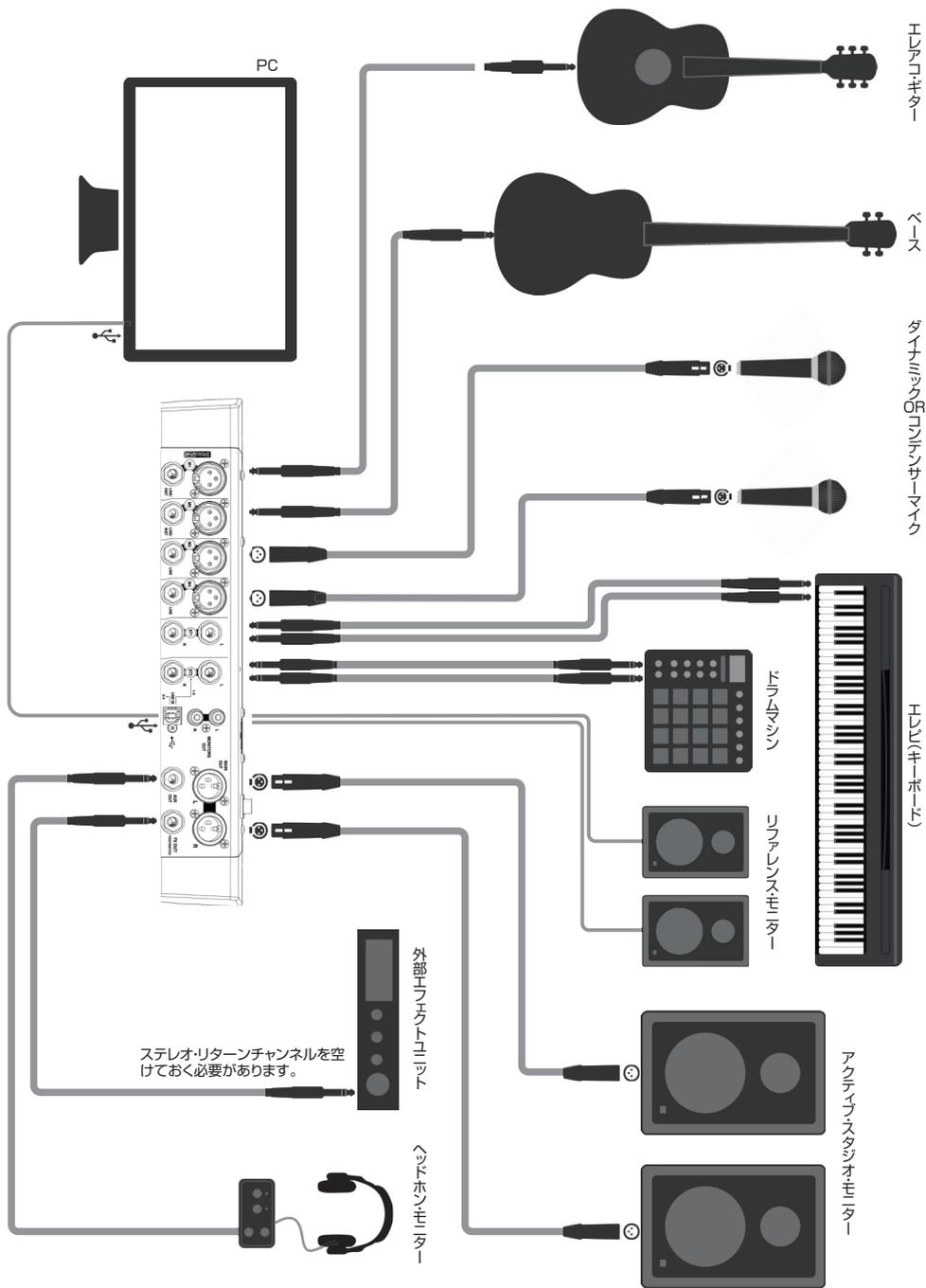
外部エフェクトユニット

ヘッドホンモニター

PC



ステレオ・リターンチャンネルを空けておく必要があります。



スタジオ



8.安全上のご注意



- 水に入れたり、ぬらしたりしないでください。火災や感電の原因になります。
- AC100V 50/60Hzの電源で使用してください。これ以外の電源では、火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。
- 付属の電源ケーブルを他の製品に使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因になります。電源コードが傷んだら（断線や芯線の露出など）、直ちに使用を中止し販売店に交換をご依頼ください。
- 水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因となります。
- 万一、落としたり筐体を破損した場合は、直ちに使用を中止し、修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。
- 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・湿気の多い場所
 - ・温度の特に高い場所、または低い場所
 - ・ほこりの多い場所
 - ・振動の多い場所
- 機器をラックに設置する場合は、必ず専用のラックマウント金具（オプション）を使用し、重量を支えるために全てのネジをしっかり固定してください。落下すると、けがや器物を破損する原因となります。
- 配線は、電源コードを抜いてから説明書に従って正しく行ってください。電源コードを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。
- 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときに、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災や感電の原因となります。

アフターサービス

保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より1年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。

HIBINO

ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70 TEL: 03-5419-1560 FAX: 03-5419-1563

E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <https://www.hibino-intersound.co.jp/>